労働科学 63 巻 12 号 (623)～(643), 1987
J. Science of Labour Vol. 63, No. 12

UDC 631.1(079.5)

雇用調整下における農家出稼ぎ者の動向に関するアンケート調査結果

栗　田　明　良*

RESULTS OF A QUESTIONNAIRE STUDY ON TRENDS OF SEASONAL MIGRANT WORKERS FROM FARM HOUSEHOLDS IN THE PERIOD OF EMPLOYMENT ADJUSTMENT

By

Akiyoshi KURITA*

The job opportunities for seasonal migrant workers from farm households have been seriously affected recently as a result of the recession-induced employment adjustment associated with the rapid yen appreciation. To know the trends of these workers, results of a questionnaire study carried out through National Chamber of Agriculture were analyzed.

It was revealed that seasonal workers who migrated yearly from rural areas to urban industries still put more emphasis on the stable, continued job opportunities for their seasonal work rather than the promotion of probitable agricultural work. Most of them felt that their job opportunities in urban areas were diminishing and hoped for an incerease in job opportunities near their homes. Nevertheless, nearly half of them intended to continue their seasonal work in urban areas for some years to come in view of the low cash income from farming work. Obviously, most farmers believed that the economic situation in farming work and the job opportunities near their homes would not improve in the foreseeable future.

In the case of seasonal migrant workers from farm households with a relatively large size of cultivated areas, they put more emphasis on taking up full-time farming work rather than continuing the seasonal work. They had the view that the promotion of agriculture and the improvement of its profitability, depending on the farming size, would change the situation and enable them to quit the practice of yearly seasonal work in urban areas.

周知のように，一昨年9月の G5（先進5カ国蔵相会議）以降，急激に進んだ円高の下で，ドラスチックな産業構造の再編・調整を迫られている我が国の雇用情勢は，業種間の著しい格差を伴いながら，全体として，かつてない深刻な様相を呈している。そして，それは農家の出稼ぎ就労にも多分に影響し，その動向が懸念される状況にある。

本資料は，いわゆる安定成長の下で高齢化すると同時に，着実に減少傾向をたどってきた農家の出稼ぎ就労に関する最近の実態ならびに意向を把握することによって，農家出稼ぎをめぐる今日的

* 労働科学研究所　社会科学研究部
Division of Social Science, Institute for Science of Labour

表 1　調査対象出稼ぎ者の性別・年齢別構成　　単位：%

	調査対象人数（人）	性別		年齢別					
		男子	女子	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無記入
北海道	122	95.9	4.1	11.5	9.0	19.7	35.2	24.6	—
青森	534	99.3	0.7	2.8	14.6	29.4	42.1	11.0	—
秋田	623	98.4	1.6	3.1	17.8	20.7	47.7	10.4	0.3
山形	444	98.9	1.1	2.9	14.9	27.9	43.9	9.9	0.5
福島	277	100.0	—	2.9	13.0	24.2	46.9	12.6	0.4
新潟	210	99.5	0.5	—	5.7	18.6	62.4	13.3	—
石川	115	86.1	13.9	—	1.7	18.3	45.2	34.8	—
合計	2,325	98.2	1.8	3.0	13.6	24.1	46.2	12.9	0.2

課題の解明と出稼ぎ対策の確立に資するために，昭和56年10月1日現在，農業委員会系統組織を通して実施したアンケート調査の結果を取りまとめたものである。

調査の方法としては，調査地を出稼ぎ農家の多い北海道と東北および北陸の3地域に限定し，原則として「出稼農業者等特別対策事業」を実施している市町村農業委員会の管内において，1市町村当たりおよそ50人（戸）程度の農家出身出稼ぎ者を調査対象として選定し，配布した調査票を一定期間留め置いた後に回収することにした。そして，期日までに回収し得た調査票は，1道6県の40市町村で合計2,325件に達した。

ただ，調査票の有効回収数は，秋田県の623件（全体の約27%）を始め，青森県の534件（約23%）および山形県の444件（約19%）といった具合に，著しく偏っている。そこで，以下の分析にあたっては，まず第1に道県別の比較を行い，その結果をふまえて，より詳細な検討を加えていくことにしたい。

1. 調査対象の概要

1) 出稼ぎ者本人

調査結果の内容に立ち入る前に，あらかじめ，調査対象出稼ぎ者の属性について，大まかに紹介しておこう。

調査対象出稼ぎ者の性別および年齢別構成は，表1に示すとおりである。性別の構成に関していえば，石川県で女子が10%以上をしめ，あるいは北海道で数%に達しているものの，調査対象全体としては，いうまでもなく，男子が約98%と圧倒的に多い。

一方，年齢構成の特徴としては，北海道で29歳以下の出稼ぎ者が10%を超え，あるいは東北の4県，とりわけ秋田県や山形県で30歳代の出稼ぎ者が比較的多い点がやや目立つ。が，調査対象全体としては，29歳以下という青年はわずか3%程度で，30歳代の出稼ぎ者も約14%程度にとどまり，40歳代が約24%をしめ，50歳代が約46%と半数近くをしめて最も多く，60歳以上という高齢者も出稼ぎ者全体の約13%をしめるようになっている点が注目されよう。

要するに，出稼ぎ者のなかには部分的に青壮年層もみうけられるとはいえ，全体としては著しく高齢化しているわけであるが，次いで，出稼ぎの形態と期間を，この1年間についてみるならば，表2に示すとおりである。調査対象の中には，いわゆる夏型の出稼ぎ者も若干みうけられるものの，全体の約76%までが冬型で，その出稼ぎに出ていた期間も平均およそ5カ月余といったところである。

もっとも，調査対象全体の約22%はいわゆる通年の出稼ぎ者であり，その出稼ぎ期間は平均およそ8カ月を超えているのであるが，なおここで，そうした調査対象出稼ぎ者の農業従事日数をみておくと，表3に示すとおりである。

有数の米所である秋田県や山形県に限っていえば，年間の農業従事日数が150日以上という者が30%を超え，年間29日以下という者はわずか数%をしめているに過ぎない。しかし，北海道や福島県などでは，そうした年間農業従事日数29日以下という出稼ぎ者が30%前後に達しており，調査対象

表 2　出稼ぎの形態と期間　　単位：%，月

	調査対象人数(人)	この1年間の出稼ぎ期間						
		夏　場		冬　場		通　年		無記入
		人　数	平均月数	人　数	平均月数	人　数	平均月数	
北海道	122	0.8	7.0	86.1	5.0	12.3	6.2	0.8
青　森	534	2.8	5.4	45.7	5.1	49.4	8.3	2.1
秋　田	623	0.6	5.3	92.1	5.8	5.5	8.2	1.8
山　形	444	0.5	4.5	91.2	5.4	7.0	9.7	1.4
福　島	277	1.4	4.0	57.4	5.0	39.0	8.6	2.2
新　潟	210	0.5	6.0	91.0	5.2	8.1	6.9	0.5
石　川	115	1.7	5.0	68.7	5.5	27.8	7.3	1.7
合　計	2,325	1.2	5.2	75.6	5.4	21.5	8.3	1.6

表 3　調査対象出稼ぎ者の年間農業従事日数別構成　　単位：%

	調査対象人数(人)	29日以下	30日～59日	60日～149日	150日以上	無記入
北海道	122	32.8	13.9	27.9	23.0	2.5
青　森	534	16.5	20.4	34.3	26.0	2.8
秋　田	623	7.7	17.0	40.6	31.9	2.7
山　形	444	6.8	15.8	37.2	36.5	3.8
福　島	277	26.4	19.9	33.6	15.2	5.1
新　潟	210	2.9	19.0	54.3	23.8	—
石　川	115	13.9	27.8	27.8	27.8	2.6
合　計	2,325	12.9	18.5	37.6	28.0	3.0

出稼ぎ者全体としても，29日以下という者が約13%をしめ，30～59日という者が約19%，60～149日という者が約38%に達し，150日以上という者は約28%程度にとどまっている点が注目されよう。

最近の出稼ぎ者は自家農業従事よりもむしろ出稼ぎを主とする，いわば出稼ぎ専業的な人が増えているわけである。

2）農業経営の概況

では，そうした調査対象出稼ぎ者が属している農家の農業経営はどのようなものか，まずは，その経営耕地規模別構成をみておくと，表4に示すとおりである。

経営耕地規模の区分に関して，部分的に若干の混乱があったものと推測される調査結果ではあるが，調査対象全体としては，1ha 未満という農家が約45%をしめているものの，1～2ha 層が約31%，2～3ha 層が約14%をしめ，さらに3ha 以上という農家も約9%をしめるといった具合に，経営耕地規模の比較的大きい農家が少なくない。

加えて，とくに山形県に限っていえば，経営耕

表 4　経営耕地面積規模別構成　　単位：%

	調査対象戸数(戸)	30a未満	30a～50a	50a～100a	100a～150a	150a～200a	200a～300a	300a以上	無記入
北海道	122	43.4	4.1	7.4	4.1	0.8	3.3	36.9	—
青　森	534	7.9	12.9	23.6	16.9	12.9	15.4	9.4	1.1
秋　田	623	6.6	8.7	17.7	24.9	17.5	17.7	6.4	0.6
山　形	444	6.3	5.6	11.9	15.8	21.4	25.2	13.3	0.5
福　島	277	20.9	22.7	28.2	13.0	7.9	4.0	0.4	2.9
新　潟	210	10.0	19.0	34.8	22.4	6.7	6.2	0.5	0.5
石　川	115	15.7	18.3	47.8	12.2	1.7	1.7	0.9	1.7
合　計	2,325	11.2	11.9	21.7	17.9	13.4	14.4	8.5	1.0

注）北海道に限っては，経営耕地規模の区分を誤認して回答したものが多数含まれているようである。

表 5　主な作目と家の兼業区分

	調査対象戸数（戸）	主な作目						家の兼業区分		
		米	工芸作物	果樹	養蚕	その他	無記入	第1種兼業農家	第2種兼業農家	無記入
北海道	122	47.5	3.3	—	—	46.7	2.5	47.5	50.8	1.6
青森	534	84.3	0.6	9.2	—	4.9	1.1	54.1	44.0	1.9
秋田	623	93.7	0.5	1.1	0.2	3.1	1.4	64.7	32.1	3.2
山形	444	97.3	—	0.7	—	—	2.0	64.6	33.8	1.6
福島	277	79.4	2.2	0.7	—	14.8	2.9	31.0	65.0	4.0
新潟	210	98.1	—	—	0.5	1.4	—	63.3	34.8	1.9
石川	115	91.3	1.7	0.9	0.9	4.3	0.9	47.8	52.2	—
合計	2,325	88.4	0.8	2.7	0.1	6.5	1.5	56.4	41.3	2.3

注）兼業の区別は，調査対象農家の判断によるもの。

表 6　出稼ぎ開始時期と最近5年間の就労先　　単位：%

	調査対象人数（人）	出稼ぎを始めた時期						最近5年間の就労先				
		昭和56年以降	昭和55年～50年	昭和49年～45年	昭和44年～40年	もっと前から	無記入	毎年同じところへ	就労先はまちまち	行かない年もある	年によってまちまち	無記入
北海道	122	20.5	21.3	41.0	11.5	5.7	—	40.2	48.4	6.6	4.9	—
青森	534	19.7	17.0	30.2	13.5	19.1	0.6	62.2	28.7	3.2	5.4	0.6
秋田	623	11.4	21.0	27.0	16.1	23.6	1.0	62.4	28.9	3.7	3.5	1.4
山形	444	13.3	14.0	27.3	23.0	20.9	1.6	57.4	30.6	5.9	3.8	2.3
福島	277	14.8	15.2	22.4	11.6	35.7	0.4	64.6	24.5	5.8	5.1	—
新潟	210	7.6	4.8	13.8	10.5	63.3	—	76.7	18.1	3.3	1.9	—
石川	115	9.6	24.3	13.0	13.0	39.1	0.9	68.7	20.9	4.3	5.2	0.9
合計	2,325	14.1	16.8	26.1	15.4	26.9	0.8	62.1	28.3	4.4	4.2	1.0

地規模2ha 以上という農家が約38%にも達しているのであるが，次に，そうした調査対象農家の主な作目ならびに家としての兼業の区分をみると，表5に示すとおりである。

調査農家の主な作目は，北海道と福島県で「その他」が，また，青森県で果樹が目立つものの，全体としては，米が約88%をしめて圧倒的に多い。そして，調査農家の兼業の区分は，秋田県とか山形県あるいは新潟県などでⅠ兼が60%を超え，全体としても約56%と過半数をしめている。

しかし同時に，Ⅱ兼が全体の約41%と半数近くをしめるまでになっている点は，上述の出稼ぎ専業的な人が増えていることに照応するものとして，注目されるところであろう。

2.　出稼ぎの現状

1)　出稼ぎ就労の最近の特徴

ところで，調査対象出稼ぎ者が出稼ぎに出るようになった時期は，表6に示すとおりであって，昭和56年以降というものが調査対象全体の約14%をしめ，昭和55年～昭和50年頃というものが約17%，オイルショック以前～米の第1次減反以降（すなわち昭和49年～45年）が約26%，大阪万国博～東京オリンピックの頃から（すなわち昭和44年～40年前後から）というものが約15%で，さらに，もっと前から出ていたというものが約27%をしめている。

高度経済成長末期の列島改造ブームと米の第1次減反の下で出稼ぎに出るようになった者，ならびに，高度経済成長前期の東京オリンピック前後の頃よりも前から既に20年以上にわたって出稼ぎを続けている者が目立つ反面，いわゆる低成長時代を迎えてから出稼ぎを始めた者，とりわけ，この数年間に出稼ぎを開始した者は比較的少ないのであるが，しかし，そうした中で北海道と青森県に限っては，最近になって出稼ぎに出るようにな

表 7　性・年齢別および経営耕地規模別にみた出稼ぎ開始時期と最近5年間の就労先　　単位：%

		調査対象人数（人）	出稼ぎを始めた時期						最近5年間の就労先				
			昭和56年以降	昭和55年～50年	昭和49年～45年	昭和44年～40年	もっと前から	無記入	毎年同じところへ	就労先はまちまち	行かない年もある	年によってまちまち	無記入
総数		2,325	14.1	16.8	26.1	15.4	26.9	0.8	62.1	28.3	4.4	4.2	1.0
性・年齢別	男子 39歳以下	381	27.6	28.3	29.7	7.6	5.8	1.1	53.8	32.5	4.5	7.1	2.1
	男子 40～49歳	554	11.9	16.8	29.2	16.1	25.5	0.5	64.6	26.9	4.9	2.7	0.9
	男子 50～59歳	1,056	11.2	12.7	24.4	17.0	34.2	0.5	63.9	27.6	4.1	4.0	0.5
	男子 60歳以上	288	7.6	15.6	23.3	19.8	32.6	1.0	62.2	28.5	4.9	3.5	1.0
	女子	41	36.6	24.4	14.6	4.9	12.2	7.3	58.5	24.4	2.4	9.8	4.9
耕地規模別	50a 未満	538	12.6	18.2	24.2	15.1	29.6	0.4	56.7	34.4	3.5	5.4	—
	50～100a	504	12.9	17.9	22.0	13.5	33.5	0.2	65.3	25.0	6.2	3.0	0.6
	100～200a	729	12.3	14.4	26.7	18.2	26.9	1.4	62.8	28.0	4.3	3.3	1.6
	200～300a	334	18.6	17.7	28.7	15.6	19.2	0.3	61.7	29.6	2.7	5.1	0.9
	300a 以上	197	21.3	17.8	35.0	10.2	14.7	1.0	67.5	19.3	5.6	5.1	2.5

った者が約20%前後にも達している点が注目される。

一方，この5年間の就労先に関しては，「毎年同じところに行っている」という者が調査対象全体の約62%をしめているものの，「毎年行っているが，就労先はまちまちだ」とする出稼ぎ者が約28%にも達している。また，「就労先は同じだが，行かない年もある」という者とか，あるいは「行かないことも多いし，就労先もまちまちだ」とする出稼ぎ者が，それぞれ4%程度をしめているのであって，最近は必ずしも「毎年同じところに行っている」わけではないようである。

しかも，そうした就労先が定まっていない出稼ぎ者等が目立つのは北海道と山形県，とりわけ低成長時代に入ってから出稼ぎを始めるようになった者が比較的多い北海道で著しいのであるが，さらに，調査対象出稼ぎ者の性・年齢別および経営耕地規模別に出稼ぎ開始時期と最近5年間の就労先をみておくならば，表7に示すとおりである。

こうしてみると，昭和50年以降の低成長下に出稼ぎを開始した者は，いわば当然のことながら，39歳以下の青壮年層に多く，年齢が高くなるに従って出稼ぎ開始時期もまた，確かに早くなる傾向を示している。

しかしながら，そうした中にあってもなお，50歳代ないし60歳以上という高齢の出稼ぎ者の約23～24%前後が，昭和50年以降になって始めて出稼ぎに出るようになったとしている点にも留意しておく必要があろう。

と同時に，最近になって始めて出稼ぎに出るようになった者は，経営耕地規模2～3ha もしくは3ha 以上という上層農家で相対的に多い点も注目されるところであるが，最近5年間の就労先に関して，必ずしも定まっておらず「まちまちだ」とする出稼ぎ者は，逆に経営耕地規模50a 未満という零細な農家で多いといった点が特徴的である。

なお，調査対象出稼ぎ者の従事職種については，表示を省略するが，建設現場の作業員がいうまでもなく圧倒的に多い。ただ最近は，周知のごとき産業構造の転換が出稼ぎ者の従事職種にも微妙な影を落とし，第3次・サービス業関係の多種多様な職種がかなり目立つようであるが，ここでさらに，調査対象出稼ぎ者が出発に際して受診する市町村の健康診断とか職安から交付される出稼ぎ手帳の取得状況をみておくと，表8に示すとおりである。

市町村の健康診断については，「必ず受ける」という出稼ぎ者が全体の約56%と過半数を超えているものの，「受けないこともある」という者が約29%をしめ，あるいは「ほとんど受けない」とする出稼ぎ者も約15%に達している。

表 8　健康診断の受診状況と出稼ぎ手帳の取得状況　　単位：%

	調査対象人数(人)	市町村の健康診断				職安の出稼ぎ手帳			
		必ず受ける	受けないこともある	ほとんど受けない	無記入	必ずもらう	もらわないこともある	ほとんどもらわない	無記入
北海道	122	52.5	28.7	17.2	1.6	73.0	9.0	15.6	2.5
青　森	534	32.6	43.8	23.4	0.2	77.0	16.7	5.8	0.6
秋　田	623	74.2	20.9	4.3	0.6	89.2	5.6	2.4	2.7
山　形	444	66.0	18.7	13.7	1.6	84.7	8.3	4.3	2.7
福　島	277	40.4	33.6	26.0	—	52.0	19.5	28.5	—
新　潟	210	63.3	27.1	9.5	—	83.8	5.7	10.5	—
石　川	115	60.0	26.1	13.9	—	80.0	10.4	9.6	—
合　計	2,325	56.2	28.5	14.7	0.6	79.3	10.8	8.4	1.5

表 9　性・年齢別および出稼ぎ開始時期と最近の就労状況別にみた健康診断の受診状況ならびに出稼ぎ手帳の取得状況　　単位：%

			調査対象人数(人)	市町村の健康診断			職安の出稼ぎ手帳		
				必ず受ける	受けないこともある	ほとんど受けない	必ずもらう	もらわないこともある	ほとんどもらわない
総　数			2,325	56.2	28.5	14.7	79.3	10.8	8.4
性・年齢別	男子	39歳以下	381	43.8	30.7	25.5	74.8	12.1	12.3
		40～49歳	554	54.2	30.1	14.6	78.0	11.9	8.8
		50～59歳	1,056	59.3	28.7	11.6	80.6	10.3	7.4
		60歳以上	288	64.2	24.0	11.1	83.7	8.3	6.3
	女子		41	65.9	9.8	19.5	78.0	9.8	7.3
出稼ぎ開始時期	昭和56年以降		328	47.6	29.6	22.3	70.4	17.4	11.3
	昭和55年～50年項		390	55.6	29.2	14.6	77.9	12.8	7.7
	昭和49年～45年頃		606	56.1	29.4	14.0	81.0	9.2	8.3
	昭和44年～40年頃		357	60.5	25.8	13.4	84.0	9.2	5.9
	もっと前から		626	59.7	28.3	12.0	81.6	8.5	8.9
最近5年間の就労状況	毎年同じところへ		1,444	57.8	27.9	14.0	80.7	10.5	7.6
	毎年いくが，就労先はまちまち		658	55.9	29.3	14.3	81.2	10.5	7.3
	就労先は同じだが，行かない年もある		102	55.9	28.4	15.7	65.7	10.8	22.5
	行かない年も多いし，就労先もまちまち		98	38.8	32.7	28.6	66.3	18.4	13.3

注）無記入は表示を省略。

一方，職安の出稼ぎ手帳に関しては，「必ずもらう」という者が調査対象全体の約79%をしめているのであるが，しかし，ここでも「もらわないこともある」出稼ぎ者が約11%に達し，あるいは「ほとんどもらわない」という出稼ぎ者も約8%程度をしめている。

しかも，そうした市町村の健康診断と職安の出稼ぎ手帳の受診ないし取得状況を，調査対象出稼ぎ者の性・年齢別と前述の出稼ぎ開始時期ならびに最近5年間の就労状況とクロスさせてみるならば，表9に示すとおりである。

いずれも年齢との相関が高く，若くなるに従って健康診断を「受けない」とか，出稼ぎ手帳を「もらわない」ケースが増え，39歳以下の青壮年層に限っていえば，健康診断を「受けないこともある」か「ほとんど受けない」者が約56%と過半数をしめ，出稼ぎ手帳を「もらわないこともある」とか「ほとんどもらわない」者も約24%に達して

表 10　就労先の賃金および労働時間の変化　　単位：%

	調査対象人数(人)	賃金				実労働時間			
		毎年少しずつ上昇	最近3年位は横ばい	むしろ低下	無記入	長くなる傾向	ほとんど変化なし	むしろ短縮	無記入
北海道	122	22.1	66.4	9.8	1.6	8.2	77.0	13.1	1.6
青森	534	16.1	69.3	13.5	1.1	6.0	66.3	26.8	0.9
秋田	623	27.3	64.0	6.9	1.8	7.5	68.7	20.4	3.4
山形	444	25.0	64.0	8.8	2.3	13.1	64.4	20.3	2.3
福島	277	23.1	62.1	14.4	0.4	9.0	66.1	24.2	0.7
新潟	210	51.0	43.3	5.2	0.5	11.4	74.8	12.9	1.0
石川	115	40.0	53.9	5.2	0.9	5.2	77.4	16.5	0.9
合計	2,325	26.3	62.8	9.6	1.4	8.7	68.4	21.0	1.8

表 11　就労先の就労時間帯と仕事のきつさ　　単位：%

	調査対象人数(人)	就労時間帯				仕事のきつさ			
		ほとんど昼間だけ	夜間の作業が多い	状況次第でまちまち	無記入	きつくなっている	あまり変化なし	むしろ楽になっている	無記入
北海道	122	82.0	6.6	9.8	1.6	8.2	87.7	2.5	1.6
青森	534	58.4	3.9	36.9	0.7	20.2	73.0	6.0	0.7
秋田	623	72.1	3.5	22.3	2.1	22.2	73.7	2.1	2.2
山形	444	73.6	4.7	17.8	3.8	19.8	74.3	3.6	2.3
福島	277	71.1	6.5	22.4	—	24.9	69.3	5.4	0.4
新潟	210	73.8	2.9	22.9	0.5	23.8	64.3	11.4	0.5
石川	115	63.5	6.1	29.6	0.9	11.3	79.1	7.8	1.7
合計	2,325	69.4	4.4	24.6	1.6	20.4	73.3	4.8	1.5

いる点が注目される。

と同時に，出稼ぎ開始時期との相関も比較的高く，出稼ぎを始めた時期が遅くなるに従って市町村の健康診断を受けなかったり，あるいは職安の出稼ぎ手帳をもらわないケースが明らかに増加する傾向にある。そして，昭和56年以降に出稼ぎに出るようになった者に限っていえば，健康診断「受けないこともある」とか「ほとんど受けない」者が約52%と過半数を超えている点もさりながら，出稼ぎ手帳を「もらわないこともある」か「ほとんどもらわない」者が約29%にも達しているのである。

出稼ぎ者が減少し，関係機関の関心も多分に薄くなり勝ちな中で，出稼ぎ手帳ももらわずに飛び出して行く若い出稼ぎ者が，このところ若干目立つようになっているわけであるが，なお，そうした出稼ぎ者は概して出稼ぎに行かない年もあったり，あるいは就労先もまちまちだとする者の中に相対的に多いことは言うまでもない。

2)　就労先の労働条件の変化

とはいえ，大方の出稼ぎ者は，出立に先だって市町村の健康診断を受ると同時に，職安の出稼ぎ手帳をもらっていくわけであるが，次に，そうした出稼ぎ者の就労先における労働条件の変化について，最近の特徴的な傾向をみると，表10および表11に示すとおりである。

まず賃金に関して，その最近の動向を尋ねたところ，「毎年少しずつ上がっている」と答えた者は調査対象全体の約26%程度にとどまり，「最近3年間くらいはほとんど横ばい」だとする者が約63%にも達し，さらに最近は「むしろ下がっている」という出稼ぎ者も約10%をしめている点が注目されよう。

一方，残業を含む労働時間については，「長くなる傾向にある」という者は約9%程度で，「ほとんど変化なし」という出稼ぎ者が圧倒的に多く，全体の約68%をしめている。しかし逆に，最近は「むしろ短くなっている」とする出稼ぎ者が約21

表 12　性・年齢別および経営耕地規模別にみた賃金と労働時間ならびに仕事のきつさの変化

単位：％

			調査対象人数（人）	賃金				実労働時間				仕事のきつさ			
				毎年少しずつ上昇	最近3年位は横ばい	むしろ低下	無記入	長くなる傾向	ほとんど変化なし	むしろ短縮	無記入	きつくなっている	あまり変化なし	むしろ楽になっている	無記入
総数			2,325	26.3	62.8	9.6	1.4	8.7	68.4	21.0	1.8	20.4	73.3	4.8	1.5
性・年齢別	男子	39歳以下	381	24.9	64.3	7.9	2.9	12.1	64.8	19.4	3.7	18.4	75.6	3.4	2.6
		40～49歳	554	28.2	61.6	8.8	1.4	8.5	66.8	22.7	2.0	20.4	73.6	4.3	1.6
		50～59歳	1,056	25.9	63.6	9.8	0.7	7.6	69.8	21.5	1.1	22.3	71.3	5.7	0.7
		60歳以上	288	23.6	62.5	12.5	1.4	9.0	69.8	20.1	1.0	17.7	76.4	4.9	1.0
	女子		41	36.6	48.8	9.8	4.9	7.3	75.6	9.8	7.3	12.2	75.6	2.4	9.8
耕地規模別	50a未満		538	21.0	66.4	12.5	0.2	9.1	69.9	20.4	0.6	21.9	72.9	5.0	0.2
	50～100a		504	29.0	59.1	10.5	1.4	8.5	68.8	20.8	1.8	19.6	73.2	5.8	1.4
	100～200a		729	27.8	62.3	8.5	1.4	7.7	68.5	21.9	1.9	20.3	73.8	4.3	1.6
	200～300a		334	24.0	65.3	9.3	1.5	9.0	66.5	21.9	2.7	22.2	71.6	4.5	1.8
	300a以上		197	33.0	60.4	3.0	3.6	10.2	66.0	20.8	3.0	14.2	78.2	4.6	3.0

％にも達しており，全体としては，周知のごとき不況の中で残業等が無くなっているものと推測される。

また，就労する時間帯に関しては，「ほとんど昼間だけ」だという者が全体の約69％をしめ，「夜間の作業が多い」とする者は約４％程度にとどまっている。ただ，「状況次第でまちまちだ」とする出稼ぎ者が，全体の約25％に達しており，「夜間の作業が多い」という程ではないにしても，いわば夜間にかかる場合が少なくないようである。

そして最後に，仕事のきつさについて尋ねた結果をみると，「きつくなっている」という出稼ぎ者が全体の約20％をしめているのに対して，「あまり変わらない」という者が73％に達しているが，「むしろ楽になっている」とする出稼ぎ者は約５％程度にとどまっている点が特徴的である。

労働時間が全体として短縮しているにも拘わらず，仕事のきつさはむしろ逆に「きつくなっている」という実感を持っている出稼ぎ者が相対的に多いわけであるが，なおここで，賃金と実労働時間および仕事のきつさに限って，調査対象出稼ぎ者の性・年齢ならびに調査農家の経営耕地規模別に比較してみるならば，表12に示すとおりである。

賃金の低下が目立つのは，60歳以上の高齢者であり，あるいは経営耕地規模の小さい農家の出身者である。ところが，労働時間に関していえば，39歳以下の青壮年層で「長くなっている」とする者が目立つものの，全体としては特に際立った違いは認められない。そして，仕事のきつさについてみても，年齢あるいは経営耕地規模による特異な傾向を読み取ることは難しい。

しかしながら，賃金と労働時間ならびに仕事のきつさに関する特徴的な変化を，出稼ぎ開始時期および最近５年間の就労状況とクロスさせてみるならば，表13に示すとおりである。

賃金については，年齢や出稼ぎ開始時期などもさりながら，毎年同じところへ行っているのかどうかによって多分に異なり，就労先が固定している出稼ぎ者の場合は「毎年少しずつ上がっている」という者が約33％をしめているのに対して，それ以外の出稼ぎ者，とりわけ就労先が定まっていない場合は，「むしろ下がっている」とする者が「毎年少しずつ上がっている」という者を上回り，十数％に達している点が特徴的である。

また，実労働時間についても，就労先との拘わり方による違いが目立ち，毎年同じところへ行っている出稼ぎ者の場合，「短くなっている」という者が約18％程度にとどまっているのに対して，就労先は年によってまちまちだとする出稼ぎ者の場合は，それが約28％にも達している。

表 13　出稼ぎ開始時期および最近５年間の就労先別にみた賃金と労働時間ならびに仕事のきつさの変化

単位：％

		調査対象人数（人）	賃金			実労働時間			仕事のきつさ		
			毎年少しずつ上昇	最近３年位は横ばい	むしろ低下	長くなる傾向	ほとんど変化なし	むしろ短縮	きつくなっている	あまり変化なし	むしろ楽になっている
総数		2,325	26.3	62.8	9.6	8.7	68.4	21.0	20.4	73.3	4.8
出稼ぎ開始時期	昭和56年以降	328	23.5	66.5	7.6	9.5	64.9	21.6	15.2	78.7	3.0
	昭和55年～50年頃	390	26.2	64.4	8.7	9.0	73.3	16.7	18.5	77.2	3.3
	昭和49年～45年頃	606	24.9	64.7	9.4	9.6	69.8	19.8	19.3	75.4	4.5
	昭和44年～40年頃	357	25.2	65.5	9.2	9.2	65.0	25.2	22.1	73.4	4.2
	もっと前から	626	30.4	57.3	11.7	7.0	69.2	22.5	24.8	66.9	7.5
最近５年間の就労状況	毎年同じところへ	1,444	33.4	59.5	6.4	8.9	72.4	17.5	17.9	75.5	5.7
	毎年いくが，就労先はまちまち	658	13.7	70.7	15.2	8.4	62.6	28.0	26.0	71.0	2.6
	就労先は同じだが，行かない年もある	102	19.6	67.6	12.7	9.8	63.7	24.5	23.5	67.6	6.9
	行かない年も多いし，就労先もまちまち	98	16.3	63.3	17.3	8.2	64.3	24.5	19.4	73.5	5.1

注）無記入は表示省略。

表 14　出稼ぎ収入の主な使途（重複回答も可）

単位：％

	調査対象人数（人）	生活費	借金の返済	農業機械等の購入資金	経営規模拡大の資金	家屋の新・改築資金	教育や結婚等の資金	預・貯金等	その他	無記入
北海道	122	84.4	9.8	14.8	1.6	1.6	4.9	8.2	2.4	—
青森	534	83.7	27.2	21.5	4.1	9.9	7.9	4.7	0.4	0.6
秋田	623	77.0	18.6	20.2	2.6	4.0	3.5	1.8	0.6	0.8
山形	444	69.6	27.9	26.6	3.6	4.7	6.1	1.8	1.1	1.6
福島	277	85.9	20.2	25.2	2.2	13.4	13.0	3.6	0.4	0.4
新潟	210	83.8	23.3	39.5	1.4	12.9	5.2	2.4	0.4	—
石川	115	87.8	10.4	30.4	2.6	13.9	9.6	8.7	—	—
合計	2,325	79.7	22.1	24.3	2.9	7.8	6.7	3.4	0.7	0.7

加えて，仕事のきつさに関していえば，出稼ぎに出るようになった時期が早く，出稼ぎ歴の長い者ほど，最近の仕事は「きつくなっている」とする出稼ぎ者が増えると同時に，就労先との関係いかんによっても大きく異なっている点が注目されよう。すなわち，毎年同じところへ行っている出稼ぎ者の場合，仕事が「きつくなっている」とする者は約18％程度にとどまっているのに対して，就労先が年毎に変わる出稼ぎ者の場合は，「きつくなっている」と感じている者が約26％にも達しているのである。

3）出稼ぎ収入の主な使途

では，そうした出稼ぎによって手にした収入はどのように使っているのか，その主な使途を尋ねた結果は，表14に示すとおりである。

最大の使途は，外ならぬ生活費であって，調査対象出稼ぎ者全体の約80％までが，出稼ぎ収入の主な使途の１つに生活費をあげている。

生活費に次いで，比較的多くの出稼ぎ者があげた項目は「農業機械等の購入資金」であり，全体の約24％をしめ，さらに第３位として，「借金の返済」をあげた出稼ぎ者も全体の約22％をしめている。

しかし，第４位の「家屋の新・改築資金」をあげた出稼ぎ者は，調査対象全体の約８％程度をしめているに過ぎず，第５位の「教育や結婚等の資

表 15　性・年齢別および経営耕地規模別にみた出稼ぎ収入の主な使途　　単位：%

			調査対象人数(人)	生活費	借金の返済	農業機械等の購入資金	経営規模拡大の資金	家屋の新・改築資金	教育や結婚等の資金	預・貯金等	その他	無記入
総数			2,325	79.7	22.1	24.3	2.9	7.8	6.7	3.4	0.7	0.7
性・年齢別	男子	39歳以下	381	79.3	22.6	28.1	3.9	6.3	8.9	6.8	1.0	0.8
		40～49歳	554	81.9	22.0	22.7	4.2	6.7	8.7	2.9	0.4	0.7
		50～59歳	1,056	79.4	23.4	25.0	2.4	7.9	5.6	2.3	0.4	0.6
		60歳以上	288	78.4	18.4	22.2	1.7	12.8	4.2	2.8	1.4	0.3
	女子		41	70.7	14.6	7.3	—	—	4.9	12.2	2.4	4.9
耕地規模別	50a未満		538	89.6	18.8	9.3	0.7	9.4	7.1	3.2	0.6	—
	50～100a		504	85.5	22.6	21.4	1.4	8.3	7.3	3.8	0.2	0.8
	100～200a		729	77.5	23.3	30.2	1.5	8.0	6.4	2.1	0.7	1.1
	200～300a		334	71.0	22.2	35.0	6.6	4.8	5.4	3.0	0.6	0.9
	300a以上		197	61.9	26.4	34.0	12.2	5.6	6.1	7.6	2.5	—

金」をあげた者は約7%で，「預・貯金等」とか「経営規模拡大の資金」などに至っては，わずか3%前後にとどまっている。

要するに，今なお出稼ぎを続け，あるいは新たに出稼ぎを開始した今日の出稼ぎ者にとって，その収入の大部分はふだんの生活を賄っていく費用として消え，そうでない場合でも，農機具等を購入するか，積もりに積もった借金の返済にあてているケースが多く，預・貯金などをする余裕はほとんど無いに等しい状態におかれているわけである。

もっとも，そうした出稼ぎ収入の主な使途も，表15に示すように，出稼ぎ者の年齢あるいは出身農家の経営耕地規模によって若干異なる。すなわち，生活費をあげた者は，経営耕地規模が大きくなるに従って相対的に少なくなり，経営規模3ha以上という最上層の農家では約62%程度にまで減っている。そして，農業機械等の購入資金とか経営規模拡大の資金に充当しているケースが，上層農家では目立つのであるが，さらにもう一つ，家屋の新・改築をあげた出稼ぎ者が60歳以上という高齢者に比較的多いのに対して，教育や結婚等の資金に関しては逆に39歳以下の青壮年層でやや増えるといった特徴を読み取ることも出来よう。

しかしながら，そうした年齢もしくは経営耕地規模等による特異な傾向と同時に，借金の返済が全階層に及んでいる点は，最近の農家出稼ぎを特徴づけるものとして，特に留意しておく必要があるかにみえる。

3.　今後の意向と要望

1)　今後の就業意向

ともあれ，農家出身の出稼ぎ者の大部分は，日々の生活費を賄う為に出稼ぎをやっているわけであるが，そうした調査対象出稼ぎ者は今後，自らの就業に関して，どのように考えているのか，その就業意向を質した結果は，表16に示すとおりである。

地域によって若干の違いがみうけられるものの，調査対象全体としては，これからも「当分の間，出稼ぎを続けたい」と考えている者が約47%と半数近くをしめる一方，「地元で就労したい」という出稼ぎ者が約30%に達している点がまずもって注目されよう。

そして第2に，将来は「自家農業に専従したい」と考えている出稼ぎ者は全体の約13%程度にとどまり，「仕事はやめて引退したい」とする出稼ぎ者も約7%程度をしめているに過ぎず，「出稼ぎ先に住みつきたい」と考えている者などはほとんど皆無に近い。

もっとも，それを出稼ぎ者の性・年齢別と調査農家の経営耕地規模別ならびに最近5年間の就労状況別に比較してみると，表17に示すとおりであって，「自家農家に専従したい」と考えている出稼

表 16　今後の就業意向　　単位：%

	調査対象人数(人)	当分出稼ぎを続けたい	自家農業に専従したい	地元で就労したい	仕事はやめ引退したい	出稼ぎ先に住付きたい	その他	無記入
北海道	122	43.4	14.8	35.2	2.5	—	0.8	3.3
青森	534	45.9	15.4	31.3	5.6	0.4	0.4	1.1
秋田	623	46.5	12.0	30.2	9.0	0.5	0.5	1.3
山形	444	45.5	15.8	26.1	8.8	0.5	1.1	2.3
福島	277	45.1	9.4	37.2	5.1	1.1	1.1	1.1
新潟	210	48.6	8.1	32.9	7.1	1.0	1.9	0.5
石川	115	61.7	8.7	16.5	10.4	—	2.6	—
合計	2,325	46.8	12.8	30.3	7.3	0.5	0.9	1.4

表 17　性・年齢別と経営耕地規模別および最近の就労状況別にみた今後の就業意向　　単位：%

			調査対象人数(人)	当分出稼ぎを続けたい	自家農業に専従したい	地元で就労したい	仕事はやめ引退したい	その他
総数			2,325	46.8	12.8	30.3	7.3	1.4
性・年齢別	男子	39歳以下	381	45.1	15.0	36.5	—	1.9
		40～49歳	554	52.9	14.4	29.4	1.4	0.9
		50～59歳	1,056	48.1	11.5	31.3	6.7	1.1
		60歳以上	288	31.6	12.5	23.6	28.1	2.7
	女子		41	53.7	9.8	9.8	17.1	2.4
耕地規模別	50a未満		538	44.8	5.9	38.3	6.3	3.4
	50～100a		504	48.4	8.9	33.5	6.9	0.8
	100～200a		729	46.4	14.0	30.2	7.4	1.1
	200～300a		334	49.1	21.0	19.2	8.1	0.6
	300a以上		197	46.7	24.4	19.8	8.1	0.5
最近5年間の就労状況	毎年同じところへ		1,444	50.6	13.4	25.9	7.7	1.4
	毎年いくが，就労先はまちまち		658	44.4	10.3	37.2	6.2	1.3
	就労先は同じだが，行かない年もある		102	27.5	19.6	40.2	8.8	2.0
	行かない年も多いし，就労先もまちまち		98	30.6	15.3	40.8	8.2	2.0

注）無記入は表示を省略。

ぎ者は，当然のことながら，経営耕地規模が大きくなるに従って相対的に増え，3ha 以上という大規模な農家の出身者ともなると，約24%をしめるまでになっている。また，「仕事はやめて引退したい」という者は当然，高齢者であって，60歳以上で約28%に達しているのであるが，さらにもう1点，できることなら「地元で就労したい」と考えている出稼ぎ者は，経営規模が小さくなるに従って相対的に増え，経営耕地面積50a 未満という零細な農家の出身者では実に約38%に達している点にも注目しておく必要があろう。

経営規模の大きい農家の出身者に自家農業専従志向が比較的強いのに対して，零細な農家の出身者は基本的に農外就労を志向し，地元就労志向が強いわけであるが，しかし，そうした出稼ぎ者の年齢とか経営耕地規模による就業意向の違いもさりながら，ここで特に注目されるのは，出稼ぎ先との関連である。

ちなみに，最近数年間は毎年同じところへ出掛けているという出稼ぎ者の場合，これからも「当分の間，出稼ぎを続けたい」とする者が過半を超え，「地元で就労したい」との希望を持っている者

表 18　今後の就業意向別にみた出稼ぎ仕事のきつさと出稼ぎ収入の主な使途　　単位：%

		調査対象人数（人）	出稼ぎ仕事のきつさ			出稼ぎ収入の主な使途					
			きつくなっている	あまり変化なし	むしろ楽になっている	生活費	借金の返済	農業機械等の購入資金	経営規模拡大の資金	家屋の新・改築資金	教育や結婚等の資金
総数		2,325	20.4	73.3	4.8	80.3	22.3	24.5	2.9	7.8	6.7
今後の就業意向	当分出稼ぎを続けたい	1,088	14.7	78.4	5.3	81.0	21.7	23.8	2.7	9.5	7.0
	自家農業に専従したい	298	24.8	68.8	5.7	71.4	21.9	32.7	7.7	5.7	4.4
	地元で就労したい	705	27.2	69.5	2.8	82.6	25.2	22.7	1.8	6.8	7.9
	仕事はやめ引退したい	169	23.1	69.2	7.7	79.9	13.6	23.7	1.2	5.3	4.1

注）無記入・その他等は表示を省略。

表 19　就労先の確保に関して　　単位：%

	調査対象人数（人）	これまでに出稼ぎ先が無くて困った経験			これからの出稼ぎ先の確保の見通し			
		ない	ある	無記入	難しくなると思う	あまり変らないと思う	わからない	無記入
北海道	122	86.9	12.3	0.8	32.8	54.1	10.7	2.5
青森	534	71.3	27.7	0.9	66.5	17.6	15.4	0.6
秋田	623	80.1	17.2	2.7	60.7	22.8	14.3	2.2
山形	444	70.5	26.8	2.7	57.0	27.7	12.4	2.9
福島	277	66.1	33.6	0.4	61.0	19.1	18.1	1.8
新潟	210	88.1	11.4	0.5	59.0	29.0	11.9	—
石川	115	79.1	20.9	—	69.6	20.0	9.6	0.9
合計	2,325	75.6	22.8	1.6	60.2	24.2	14.0	1.7

は約26%程度にとどまっているのに対して，就労先がまちまちであったり，あるいは行かない年もあるといった出稼ぎ者の場合は，前者すなわち「当分の間，出稼ぎを続けたい」とする者が約30～40%前後に減る一方，できることなら「地元で就労したい」とする者が概ね40%程度にまで達しているのである。

特定の就労先があるのかどうか，就労先との拘わり方いかんが，今後の就業意向を大きく左右しているわけであるが，さらに，前述の出稼ぎ先の仕事のきつさ，ならびに出稼ぎ収入の主な使途と今後の就業意向をクロスしてみるならば，表18に示すとおりである。

いわば当然のことながら，今後ともに出稼ぎを続けたいという，出稼ぎ継続志向が強い場合，仕事のきつさはさほど問題にしていない。が，地元就労を志向する出稼ぎ者の場合は，仕事が「きつくなっている」ことを意識している者が約27%で，出稼ぎ継続志向者のおよそ2倍に達している。

と同時に，出稼ぎ収入の主な使途として，借金の返済をあげた者が約25%をしめ，その他の出稼ぎ者に比べて多少とも多い点にも注目しておく必要があるのかも知れない。地元就労志向者を出稼ぎに駆り立てた要因の1つに，周知のごとき累積する農家の負債問題が介在していることを示唆しているものと考えられるのである。

2）出稼ぎ就労確保の見通し

それにしても，今後の就業意向を大きく左右している要因の1つに，安定した就労先の確保問題があることは否めないところである。ちなみに，就労先の確保問題をめぐって，調査対象出稼ぎ者は「これまでに出稼ぎ先が無くて困ったこと」があるのかどうか，また，「これからの出稼ぎ先の確保」についてはどのような見通しを持っているのかを質した結果は，表19に示すとおりである。

これまでに出稼ぎ先が無くて困ったことは「ない」という者が調査対象全体の約76%をしめているものの，逆に「ある」という出稼ぎ者が約23%

表 20　性・年齢別および経営耕地規模別にみた就労先の確保状況と見通し　　単位：%

			調査対象人数(人)	これまでに出稼ぎ先が無くて困った経験			これからの出稼ぎ先の確保の見通し			
				ない	ある	無記入	難しくなると思う	あまり変らないと思う	わからない	無記入
総数			2,325	75.6	22.8	1.6	60.2	24.2	14.0	1.7
性・年齢別	男子	39歳以下	381	73.5	23.9	2.6	58.0	25.5	14.7	1.8
		40～49歳	554	75.3	23.6	1.1	60.1	26.2	12.8	0.9
		50～59歳	1,056	76.8	22.0	1.2	62.6	22.5	13.3	1.6
		60歳以上	288	75.3	23.3	1.4	55.6	24.0	18.1	2.4
	女子		41	73.2	19.5	7.3	53.7	26.8	12.2	7.3
耕地規模別	50 a 未満		538	75.5	23.8	0.7	53.5	27.9	17.7	0.9
	50 ～ 100 a		504	75.6	23.2	1.2	63.7	19.2	14.9	2.2
	100 ～ 200 a		729	73.8	24.1	2.1	63.1	23.2	11.7	2.1
	200 ～ 300 a		334	76.6	21.9	1.5	62.0	26.3	10.2	1.5
	300 a 以上		197	81.7	15.7	2.5	57.4	25.4	15.7	1.5

表 21　最近5年間の就労状況および今後の就業意向別にみた出稼ぎ先が無くて困った経験の有無
単位：%

		調査対象人数(人)	ない	ある
総数		2,325	75.6	22.8
最近5年間の就労状況	毎年同じところへ	1,444	82.8	16.3
	毎年いくが，就労先はまちまち	658	64.3	34.3
	就労先は同じだが，行かない年もある	102	73.5	25.5
	行かない年も多いし，就労先もまちまち	98	56.1	41.8
今後の就業意向	当分出稼ぎを続けたい	1,088	80.1	18.8
	自家農業に専従したい	298	73.8	24.2
	地元で就労したい	705	69.4	30.2
	仕事はやめ引退したい	169	82.2	16.6

注）無記入は表示を省略。

にも達しているのであって，安定した就労先の確保は従来から出稼ぎ者にとって極めて重要な問題点の1つであったことをまずもって確認しておく必要がある。

しかも第2に，出稼ぎ先の確保をめぐる今後の見通しは，「難しくなると思う」出稼ぎ者が調査対象全体の約60%をしめ，「あまり変わらないと思う」者は約24%程度にとどまっている。周知のごとき円高不況が深刻な様相を呈しつつある状況の中で，出稼ぎ者の雇用不安もまた一段と大きくなっているわけである。

そこでさらに，就労先の確保をめぐって困ったことの有無と今後の見通しに関して，出稼ぎ者の性・年齢ならびに調査農家の経営耕地規模別に比較してみると，表20に示すとおりであって，これまでに就労先が無くて困った経験を持っている出稼ぎ者は，男子に限っては39歳以下という青壮年層を含む総ての世代で，また，経営規模3 ha 以上という最上層の農家の出身者を除く総ての階層で，20%を超えている。加えて，これからの見通しに関しても，出稼ぎ者の性・年齢あるいは経営規模のいかんに拘わらず，「難しくなる」と考えている者が60%前後をしめているのである。

しかしながら，出稼ぎ先が無くて困った経験の有無に限って，最近5年間の就労状況ならびに今後の就業意向別に比較してみるならば，表21に示

表 22　今後の出稼ぎ対策として望まれること（2項目選択）　単位：%

	調査対象人数（人）	農業振興等出稼ぎ防止対策	地元での雇用機会の拡大	安定した出稼先の確保	技能講習の充実	賃上げ等労働条件の改善	実効ある出稼ぎ相談	留守家族対策の強化	健康診断や安全教育の充実	その他	特になし	無記入
北海道	122	21.3	76.2	48.4	1.6	14.8	2.4	4.1	3.3	—	2.4	3.3
青森	534	25.8	54.7	34.6	6.4	24.5	2.6	6.6	3.4	0.6	1.4	2.1
秋田	623	25.4	51.4	24.2	5.4	14.4	2.7	5.3	4.8	0.3	2.9	4.7
山形	444	26.1	55.2	23.2	5.6	20.4	2.7	2.9	4.7	0.2	1.6	2.9
福島	277	27.8	48.0	37.2	4.7	17.7	4.0	4.0	2.5	0.7	4.3	1.1
新潟	210	21.9	52.4	28.6	2.9	18.1	2.4	18.1	4.3	—	4.3	1.4
石川	115	26.1	67.8	29.6	0.9	10.4	8.7	6.1	4.3	—	2.6	2.6
合計	2,325	25.4	54.7	29.9	4.9	18.4	3.1	6.1	4.0	0.3	2.5	2.8

すとおりであって，就労先が固定している出稼ぎ者の場合，これまでに出稼ぎ先が無くて困ったことが「ある」という者は約16%程度にとどまっている。ところが，就労先が定まっていない出稼ぎ者の場合，毎年出掛けている人でも，出稼ぎ先が無くて困ったことが「ある」という者は約34%に達し，前者の2倍を超えている。

従ってまた，これからも当分は出稼ぎを続ける意向を持っている者の場合，これまでに就労先の確保をめぐって困ったことが「ある」という者は，約19%程度であるのに対して，今後は地元で就労したいと考えている出稼ぎ者の場合，就労先の確保をめぐって苦労した経験が「ある」という者が約30%と，前者が大きく上回っているのである。

要するに，就労先の確保をめぐる過去の体験や将来の見通しは，年齢とか経営耕地規模といった調査対象出稼ぎ者の属性それ自体によって左右されるというよりも，長年にわたって築き上げてきた就労先との縁故いかんに依存する面が強く，それが今後の就業意向にも多分に反映されているわけである。

もっとも，周知のように雇用不安が日を追う毎に拡大する中で，出稼ぎ先の確保をめぐる将来の見通しに関しては，押しなべて悲観的になっている点こそが最大の特徴であって，従来からの縁故などに過大な期待をかけることは許されなくなりつつある状況は，すでに大方の出稼ぎ者が意識するところとなっているようである。

3）望まれる出稼ぎ対策

では，そうした状況下におかれている調査対象出稼ぎ者は，今後の出稼ぎ対策としてどのようなことを期待しているのか，あらかじめ準備した8項目の中から最も望まれる対策を2つ以内に限って選択してもらった結果は，表22に示すとおりである。

地域によって若干の違いはみうけられるものの，多くの出稼ぎ者の共感を呼んだ対策は「地元での雇用機会の拡大」であって，調査対象全体の約55%をしめ，その他の項目を大きく引き離している点がまずもって注目される。

しかし同時に，「安定した出稼ぎ先の確保」をあげた出稼ぎ者が全体の約30%をしめ，「地元での雇用機会の拡大」に次いで第2位に位置する一方，「農業振興等，出稼ぎ防止対策の強化」をあげた出稼ぎ者も約25%に達し，第3位をしめている点にも留意しておく必要があろう。前掲表20等によってみたとおり，今後「自家農業に専従したい」と考えている出稼ぎ者はさほど多いわけではないが，しかし，「農業振興等，出稼ぎ防止対策の強化」に期待をかける出稼ぎ者が，県によっては「安定した出稼ぎ先の確保」を上回っているのである。

とにかく，「安定した出稼ぎ先の確保」と「農業振興等，出稼ぎ防止対策の強化」という，いわば，全く相反する対策を望んでいる出稼ぎ者がほぼ同じ位の割合をしめているのであるが，加えて第3に，「賃金の引上げ等，労働条件の改善」を希望する出稼ぎ者が約18%に達しているのとは対照的に，第5位の「技能講習の充実」を始め，「留守家族対策の強化」とか「健康診断や安全教育」，あるいは「実効ある出稼ぎ相談」等を選んだ出稼ぎ者は，いずれも数%程度をしめているに過ぎな

表 23　性・年齢別および経営耕地規模別にみた今後望まれる出稼ぎ対策　　単位：%

			調査対象人数(人)	農業振興等出稼防止対策	地元での雇用機会の拡大	安定した出稼先の確保	技能講習の充実	賃金等労働条件の改善	実効ある出稼ぎ相談	留守家族対策の強化	健康診断や安全教育の充実	その他	特になし	無記入
総数			2,325	25.4	54.7	29.9	4.9	18.4	3.1	6.1	4.0	0.3	2.5	2.8
性・年齢別	男子	39歳以下	381	27.6	57.2	24.1	8.4	21.0	2.4	4.7	2.4	—	3.1	3.1
		40～49歳	554	27.1	57.2	29.1	6.3	18.1	3.6	6.3	3.6	0.2	1.6	1.8
		50～59歳	1,056	24.7	53.4	31.2	4.1	17.9	2.7	6.8	4.4	0.6	2.4	2.7
		60歳以上	288	22.6	50.3	34.7	1.7	18.8	4.2	5.2	5.9	—	4.2	3.8
	女子		41	19.5	63.4	24.4	—	12.2	4.9	4.9	4.9	—	—	9.8
耕地規模別	50a未満		538	15.1	57.4	39.8	2.0	24.2	2.6	6.1	3.9	—	2.8	2.0
	50～100a		504	22.4	55.0	33.5	5.8	16.4	3.4	7.7	4.0	0.4	2.6	3.0
	100～200a		729	28.8	55.4	24.8	4.7	16.4	3.7	6.2	5.1	0.5	2.4	2.3
	200～300a		334	35.3	50.3	24.9	6.3	17.1	2.1	4.2	3.3	—	2.4	2.7
	300a以上		197	34.5	52.3	20.3	9.1	14.2	3.6	5.6	2.5	0.5	2.5	5.1

表 24　地元に安定した職場があった場合の対応　　単位：%

	調査対象人数(人)	地元に安定した職場があれば出稼ぎは・・・・				
		やめる	続ける	条件次第だ	わからない	無記入
北海道	122	48.4	3.3	21.3	23.8	3.3
青森	534	60.9	5.8	25.3	6.9	1.1
秋田	623	63.1	7.9	19.4	7.7	1.9
山形	444	60.6	2.5	24.3	9.7	2.9
福島	277	66.8	6.1	22.7	3.6	0.7
新潟	210	62.4	4.8	21.0	11.9	—
石川	115	70.4	8.7	16.5	4.3	—
合計	2,325	62.1	5.7	22.2	8.5	1.6

い点も注目されるところであろう。

出稼ぎ者の多くが相当の出稼ぎ歴をもつ中高年者である為に，技能講習や留守家族対策などには，あまり関心を払わなくなっているものと考えられるが，なお，調査対象出稼ぎ者の性・年齢および調査農家の経営耕地規模別に，望まれる出稼ぎ対策の内容をみると，表23に示すとおりである。

性・年齢あるいは経営耕地規模のいかんに拘わらず，過半数の出稼ぎ者が期待している「地元での雇用機会の拡大」についてはともかく，調査対象全体としては第2位をしめる「安定した出稼ぎ先の確保」に関していえば，経営耕地規模が零細で，しかも高齢化するに従って，関心を示す出稼ぎ者が増加する傾向にある。ところが，第3位の「農業振興等，出稼ぎ防止対策の強化」に関しては逆に，経営耕地規模が大きくなるに従って，また比較的若い出稼ぎ者ほど，希望している者が増えるといった点が特徴的である。

経営耕地規模が大きく，しかも年齢が比較的若い出稼ぎ者の場合，必ずしも農業専従になることを志向しているわけではないにしても，農業振興にかける期待がいかに根強いかを示唆しているものといえようが，しかし，全体としては農業振興よりも雇用機会の拡大，とりわけ地元でのそれを期待する出稼ぎ者が圧倒的に多いことは，すでにみたとおりである。

そこで最後に，「地元に安定した職場があれば」という仮定を設けて調査対象出稼ぎ者の対応いかんを尋ねたところ，表24に示すとおりの結果を得

表 25　性・年齢別および経営耕地規模別にみた地元に安定した職場があった場合の対応

単位：%

			調査対象人数(人)	地元に安定した職場があれば，出稼ぎは‥‥				
				やめる	続ける	条件次第だ	わからない	無記入
総数			2,325	62.1	5.7	22.2	8.5	1.6
性・年齢別	男子	39歳以下	381	58.8	3.9	26.5	9.7	1.1
		40～49歳	554	58.5	6.7	25.3	7.6	2.0
		50～59歳	1,056	65.3	5.8	21.0	6.4	1.4
		60歳以上	288	62.5	5.2	16.3	14.2	1.7
	女子		41	53.7	9.8	9.8	22.0	4.9
耕地規模別	50 a 未満		538	60.2	6.9	22.1	9.3	1.5
	50 ～ 100 a		504	63.9	6.2	20.6	8.1	1.2
	100 ～ 200 a		729	64.9	5.1	20.9	8.0	1.2
	200 ～ 300 a		334	60.2	4.5	24.9	8.7	1.8
	300 a 以上		197	55.8	6.1	25.9	9.1	3.0

た。すなわち，地元に安定した職場があれば，出稼ぎは当然「やめる」という者が全体の約62%に達し，例え安定した職場が地元にあっても，やはり出稼ぎは「続ける」つもりであるという者は，ほんの数%をしめているに過ぎないのである。

もっとも，相当数の出稼ぎ者が「条件次第だ」とし，あるいは「わからない」という者も若干みうけられるのであるが，しかし，大勢は「地元に安定した職場があれば，出稼ぎはやめる」方向であり，それは，表25に示すように，出稼ぎ者の性・年齢あるいは出身農家の経営規模等の違いを超えた，出稼ぎ者全体に共通する願いでもある。

4.　最近の出稼ぎに関する自由意見

以上，最近の急激な円高にともなって深刻な様相を呈しつつある今日の雇用情勢の下で，農家の出稼ぎ就労の現状と今後の動向を把握すべく実施したアンケート調査の結果を紹介してきたわけであるが，なお最後に，調査票に記載されていた最近の出稼ぎ就労をめぐる調査対象出稼ぎ者の自由意見をひろっておくと，以下のとおりである。

＜北海道＞

1. 地元に十分な仕事が沢山あれば，出稼ぎはしないで良い。
2. 遠別町の人間ですので，夏も冬も遠別で仕事をしたいと思います。できれば出稼ぎはしたくない(家族の為に)。
3. 雇用条件が厳しくなっている。冬期間の雇用の場がほしい。
4. 地元で働きたいと思うが，冬期間はやむを得ないと思う。
5. 労働条件が厳しくなって来ており，地元で働けるところがあればよいと思う。
6. 冬期間，地元には大工仕事がない為，どうしても出稼ぎをするしか方法がない。
7. 老齢化してくると雇用が難しくなるので，地元で働ける場がほしい。
8. 地元で就労できればよいと思うが，今のところは無理だと考えている。
9. 冬期間働く場がないので，出稼ぎするより方法がない。当分，続けたいと思っている。
10. できれば地元で働きたいが，冬期間は今のところ無理だと思う。
11. 通勤兼業による収入は期待できず，出稼ぎに頼る以外に方法がないので，出稼ぎ先の確保をお願いしたい。
12. 冬期間，出稼ぎ収入に頼るより方法がない。
13. 地元で働く場がないので，出稼ぎするより方法がない。地元で，特に冬期間，働く場がほしい。
14. 冬場は暖かいところで働きたい。
15. 当分，出稼ぎは続けたいと思うが，できるだけ地元で働ける場がほしいと思っている。
16. 冬期間の就労の為，職種も限られたものになってしまう。冬期の雇用拡大をはかってもらいたい。

17. 地元で働ける場があればよいが，現状では無理だと考える。
18. 老齢化してくると，出稼ぎもできないので，特に冬場の雇用の場がほしい。
19. 老齢者の働ける場所がほしい。
20. 老齢化にともない，地元で働けるところがあれば，と思う。
21. 冬期間の働く場がないので，どうしても出稼ぎはやめられないと思う。
22. 冬場の収入が見込めない為，やはり出稼ぎによる収入に頼るより方法がない。雇用の拡大をはかってもらいたい。
23. 冬期間，働く場所がないので，当分，出稼ぎを続けたい。
24. 冬の間，地元で働くところもないし，冬場は暖かい土地で働きたいと思っている。
25. 働く場が年々厳しくなって来ている。老齢化にともない，高齢者でも就労できる場がほしい。
26. 地元で働きたいので，働く場所を確保してほしいと思う。
27. 雇用条件が難しくなっており，老齢になって来た為にやめたいと思っているが，地元で働けるところがほしい。
28. 雇用側は正月の帰省について考えるべきだ。長期にわたって家庭を離れるのはよくないから。
29. 私が行った所では，最後に賃金を受け取るまで，日当の額をはっきり知らせず，不安な思いをした。雇主は労働者に対して余計な心配を掛けぬよう，配慮してほしい。

＜青森県＞

1. 私が出稼ぎに出るようになってもう12～13年になります。就労先は毎年同じで，社長も本当によい人ですし，私の仕事は管口やマンホールの中の仕事で，本当に楽ですから，この年になっても出稼ぎをやめる気持ちはありません。
2. 出稼ぎより地元で働きたい。
3. 健康第一だが，これからは健康だけでは駄目だ。何か技能の免許が無いと駄目だと思う。
4. 最近，出稼ぎの職場も狭くなり，監督も厳しくなっていますので，技能講習，健康診断，安全教育は是非ともやってほしい。
5. 地元に賃金のよい働き場があれば，ぜひ働きたい。
6. 賃金の引き上げを要望したい。
7. 特に東北出には風当たりがきつい。
8. 地元での就職は，いくら足を運んでも，60を過ぎた私等では無理。関東では60を過ぎても，まだ望みはあるが，‥。
9. 地元で就労できるような職場がほしい。
10. 賃金を引き上げて高収入を得たい。
11. 出稼ぎは年毎に容易でない傾向が見受けられて参りました。今後の生活に響くと思います。
12. 私は出稼ぎに出るようになって10年近くになりますが，私が出稼ぎを始めた当時は残業等もあって，現在よりも賃金の手取り金額は良かったものです。ところが，最近は残業も少なくなり，手取りが少なくなりましたので，農業振興に力をいれ，出稼ぎをしなくても良いように考えてほしい。
13. 地元の雇用拡大を。
14. 出稼ぎ先は北海道の漁業であるが，魚が安く，賃金も５～６年前より下がったので，生活費と家屋の新築費の返済に困っている。
15. 幾年も従事してきた仕事がきつくなっている。
16. 一般職種の免許の講習および実地試験の励行。
17. 職場が年々減少の一途をたどっている為に，職場の確保をお願いしたい。特に東北地方の方々の仕事場の確保を是非お願い致したい。
18. 現在の円高・ドル安では，輸出を主としている製造業の会社は安定した出稼ぎ先とは言えず，我々も不安です。町で農業振興や安定した出稼ぎ先の確保をしてもらえれば，これからの農業経営や生活も安心なのですが，‥。
19. 出稼ぎ募集を町で行って頂きたい。
20. 出稼ぎも60歳位で年と共に嫌われるらしいが，年金が65歳と言われている今日この項，せめて年金につながらないと生活できない。
21. 毎週日曜日は休みだし，残業はないし，雨降りは休みで，全くお金になりません。
22. 賃金に対する税金を下げてほしい。
23. 雇主も最近は人夫達のやる気とか技能等について，かなりうるさくなりまして，人夫達もその点に留意して出稼ぎをしなければ脱落して行くと思います。
24. 余り仕事がなくて困っております。
25. 出稼ぎは出来るだけしたくない。地元で安心して働ける職場があれば良いと思います。
26. 毎年同じ職場ですので，会社との触れ合いが良く，仕事上では別に困っておりません。ただし，１日の労働時間がちょっと長過ぎる点は気になる時もあります。
27. 最近の円高により失業者が出るのが心配です。

28. 最近，出稼ぎ先が無くて困る事が多くなったので，地元に良い職場があれば良いと思います。
29. 出稼ぎ先の仕事も最近は非常に時間に追われ，危険になったので，地元で働く所があれば地元に居たい。
30. 技能資格を必要とする。
31. 仕事が少なくなった。という事は，働けないので収入が少なくなった。

＜秋田県＞

1. 年齢制限があって困る。
2. 出稼ぎを是とする訳ではないが，現在の農業を取り巻く状況からすると，やむを得ない事だと思います。
3. ①年齢制限があって困る。
②自分の技術を生かすような働き場がほしい。
4. 賃金の引き上げをして貰いたい。
5. 仕事はきつく，賃金は安い。
6. 出稼ぎを始めて10年以上同じ会社ですので，特に問題はありませんが，早く出稼ぎに出なくてもよいようになりたいと思います。
7. 経営主が法規を守らない。
8. 秋田人はマジメだから会社の上司に信頼がある。
9. 現場の安全対策が段々と悪くなってきた。
10. 地元の賃金と首都圏の賃金が余りにも開き過ぎていて，もう少し地元賃金が上がれば条件次第で地元で仕事をしたい。
11. 高齢者の雇用について，出稼ぎ先の確保ができればよいと思います。
12. 年齢が高くなるに従って危険作業の多い職場しか雇用がないので，改善できないものかと思う。
13. 地元に企業誘致を願う。
14. 出稼ぎのない農業を望んでおります。
15. ①税金の面で十分な対策がほしい。
②留守家族の事が心配である。
16. 3年前から出稼ぎに出ました。税金等が大幅に高くなった。
17. 最近は，ろくな仕事がなく，賃金も安い。締め切り後，支払いまでの日数が長い。
18. 私は日産自動車 KK に12年間お世話になりましたが，最近の円高・ドル安の影響もあって，自動車業界全体が不振で，今年の冬はどうも行けないようです。今までは比較的恵まれた条件で働いてこられたのに，今年は地元で働こうと思ってもなかなか仕事が見付からず，困っています。今後，地元での雇用機会の拡大を要望します。
19. 出稼ぎ先の事業所は，我々労働者を使い捨ての感じがありありと見えます。出稼ぎ防止対策の強化，地元での雇用機会の拡大を早期に希望致します。
20. 出稼ぎに行っても地元の情報は湯沢広報と TEL の2つだけ。内容のある情報を出稼ぎ先にも送ってもらいたい。
21. 出稼ぎ収入への課税の減額を要望します。
22. ①米以外の農産物で地域にあった作物の産地化が出来るよう，作物の統一と流通の整備について，各農業団体のもっと積極的な指導と方向付けをしてもらいたい。
②冬期間を特に重視した地元での雇用の場（夏場生産した物を冬期間に加工・販売できるような仕組み）を考えてほしい。
23. 円高による海外からの受注が減り，その分，私達出稼ぎ労働者は簡単に首を切られる。私達も他の正職員と同じように生活の為に働いているのに，こんな事は許されないと思う。生活を完全に保障する抜本的な国の施策を望む。
24 労基法の徹底実施と安全第一の徹底！出稼ぎ者の真に自覚ある行動！
25. 出稼ぎ東京大会はやめた方がよい。掛けるお金がもったいない。
26. 出稼ぎ大会には行った事がない。替わりに各職場に来てもらった方が良い。毎年でなくても，何年かに1度でもよい。
27. 現在の農業政策および農機具を含む諸物価のなかでは，農地からの収益だけで生活するのは困難。地元産業の充実に期待。
28. 今後，出稼ぎ者として要望したい事は，安定した出稼ぎ職場の確保の為にも，各部門の技能講習の充実を計り，資格の取得を進める事が必要だと思いますので，当局の便宜取り計らいをお願い致します。
29. 就労先を探すのに苦労する。
30. 老齢者の働き先がないので困る。
31. 賃金を高くして下さい。
32. 地元に職場をつくってほしい。
33. 65歳位まで行きたいと思うが，難しくなってきた。働けるような仕事を確保してほしい。
34. 賃金が安い。仕事がきつい。

＜山形県＞

1. 賃金が最近は上がらない。
2. 55歳以上になると就労が難しくなった。年をとる

と低賃金で働かねばならなくなった。

3. 私は兄の仕事を手伝ってきたが，今年は行かないつもり。
4. 出稼ぎ先の事業所へ行政からお礼状を出してもらいたい。
5. 安心して就労できるように，会社，地域，国などで考えてほしい。
6. 農閑期に適当な職場があれば，出稼ぎはやめたい。賃金にもよるが，‥。
7. 出稼ぎ先で「仕事が少ない」と言われると，おもしろくない。
8. 地元での冬場の雇用拡大をはかり，出稼ぎのない農業を希望する。
9. 60歳と同時に家に帰る。
10. 出稼ぎに行き始めた頃と違い，残業がなくなった。残業があれば飯代位になるので，これが要望です。でも，仕事があるだけ幸せだと思って働いている。
11. 賃金は上がらず，仕事の量が少なくなっている。
12. 最近（5～6年），賃金の据置が続き，実質的な賃下げです。労働時間に見合う賃上げをお願いします。
13. 体に注意して働けるだけ働きたいと思っております。私が42年に始めて会社に行った時より大分会社も大きくなりました。従業員が夏でも20人働いております。
14. 出稼ぎについては，要望はあまり感じておりませんが，60歳以上になると難しくなるので，地元で働く職場があれば良いと思っております。が，なくて困っている。
15. 今年は地元就労する事になりました。
16. 地元に安定した職場があれば，いつでもやめたい。
17. 月に1度帰家できる会社で，旅費も半分位負担してくれる会社であってほしい。
18. 暗いイメージの出稼ぎも，やってみると結構楽しい‥‥。が，何かむなしい。
19. やめるので，何も書くことはない。
20. 何年たっても賃金が上がらず，地元より安定しない場合もある。
21. 住み良い地元で働く職場がありますよう，お願いします。
22. 転作をなくし，米価を上げれば，出稼ぎなど無くなる。
23. 15年位前から賃金が変わらないが，物価が上がり，生活が苦しくなっております。仕事の割に賃金が安い。税金の割に賃金が安い。
24. 世の中，真っ暗。家の中も，真っ暗。
25. 地元雇用の拡大を望む。
26. 以前と違って仕事も無くなり，残業などもありません。賃金も据置なので，少しは良くなって貰いたい。今は技術的なものが多いから，色々な資格を得て，自分の身につけた方が有利な時代だと思う。
27. 出稼ぎ者は最近，年配の人が多くなっているので，出稼ぎ前の健康診断は100%実施するようにすべきだと考えている1人です。
28. 最近の出稼ぎ先の仕事は，前よりもきつくなって来ている。
29. 出稼ぎ者の受け入れが粗末になり，賃金は横這い，労働は激しくなり，安定した出稼ぎとは言われない状況である。
30. 後5～6年出稼ぎをやって生活費を補ってやりたいと思っておりますが，地場産業があって，収入が出稼ぎ並にあれば，やめたいと考えております。
31. 賃金が安い。宿泊施設が悪い。
32. 賃金が上がらなくて困る。
33. 減反のパーセンテージが現在よりも多くならないように強く見直しをお願い致したい。
34. 地元での職場がほしい。
35. 積雪や寒さも厳しい折，外の仕事は関東以西でないと容易でないと思う。
36. 賃金の引き上げを望みます。
37. 市町村役場，農協等の連絡情報網の強化。
38. 賃金を上げてほしい。
39. 関東地方等の出稼ぎ先に役場から出張して見学に行っているが，あれはどういう効果があるのか。あれば，町報に報告書を提出すべきであり，なければ，やめるべきである。町費の無駄遣いであると思う。我々から見れば何の役にも立っていない。
40. 地元で冬期間でも働く所を増やしてほしいと思う。
41. 賃金の引き上げ。

＜福島県＞

1. 今の農政では，出稼ぎを続ける以外に収入はないので，やむを得ない。
2. 冬が長いので生活に困るから，やむを得ない。
3. 地元にこれという良い働き場所が無いので，やむなく冬期間だけでも出稼ぎに出ております。

4. 今年から近くの自動車部品工場に勤務するようになりました。
5. 出稼ぎに行くと小遣いに困ることが無いから良い。
6. 結婚したので，出稼ぎをやめて地元で働く予定。
7. 地元で働く良い場所がないので，冬期間だけでも出稼ぎに出て働いております。
8. 今の農業の状態では出稼ぎもやむを得ないと思う。もう5年間位，働きます。
9. 冬場だけなので，やむなく出稼ぎに行くのだが，楽しい事もある。
10. 冬期間だけ致し方なく出稼ぎに出る。
11. 賃金が安い地元で働くより，高い賃金の方が良いので，冬期間だけでも出稼ぎに出ております。
12. 冬期間，家にいる訳にもいかず，やむなく出掛ける。
13. 雪国の為，やむなく出稼ぎに出ているが，市内で働きたい。
14. あみ張りの仕事で，寒い時もあるが，家族の事を考えると，やむを得ない。
15. 家を離れる事は大変だが，今の政治の有り方ではやむを得ない。
16. 今の出稼ぎは前より良くなりました。
17. 地方に就労できる職場の確保を‥‥。
18. 賃金の引き上げ。
19. 賃金を上げてほしい。
20. 円高により仕事不足。出稼ぎ賃金は次第に安くなる。
21. ここ3年間は賃金が横這いで困っております。できれば幾らか昇給をと思います。
22. 出稼ぎをしておりますと，故郷の状況がわかりません。毎年，町便り，農協便りが来るのを楽しみにしております。長く続けて下さるよう，お願い致します。
23. 賃金の引き上げを望みます。
24. 出稼ぎ者の健康管理が十分されていないように思う。この事は大切であると考えているが，現実には忙しさの為に出来ないのが現状である。そこで，市町村の健康診断を必ず受けるよう，又，受けられるように，指導を含めて要望します。
25. 今は仕事が無いので，出稼ぎに行けるのか，心配です。
26. 出稼ぎ者互助会の会員制度を設けて，留守宅を守る主婦の方々の為に，又，不時の出費が発生した場合の資金の調達方を援助して，その急場をしのぐ互助資金の制度を設けてみたら，いかがですか。
27. 元請負会社で働きたいが，いつも下請負会社で働いている為，賃金が安い。
28. 安定した地元の雇用対策。
29. 1日の労働時間を守ってほしい。
30. 安定した出稼ぎ先の確保。
31. もう少し実行のある対策に国も町も一体になって力を入れてほしい。町だけでは，とても無理なのではないでしょうか。
32. 賃金を上げてほしい。
33. 安全教育の充実。夜間作業の減少を希望。
34. 地元での安定した雇用拡大が望まれる。
35. 町役場に出稼ぎ相談員がいれば良い。
36. 昨年まで出稼ぎに行っていましたが，今年から農協の専従になりました。
37. 交通費等の必要経費の支給を。

＜新潟県＞

1. 郷土の便り，十日町新聞を出稼ぎ先に送ってもらいたい。
2. 地元に安定した職場を確保し，出稼ぎによる兼業農家をなくしたいものである。
3. 地元で就労できるような所があれば幸いだと思う。
4. 急激な降雪時に一時帰れる時間がほしい。
5. 年々出稼ぎ者が高齢化しているので，健康相談等の機会を充実し，より明るい職場を開拓し，より一層の労働環境の改善に努力して，雇用不安のない社会を要望します。
6. 物価が上がっても，賃金は変わらない。
7. あまり意見はないが，年をとるに従って家に残りたいと思う。しかし，今の場合は仕方がない。
8. 地元に安定した職場があれば，出稼ぎはやめたいと思います。
9. 安全衛生法が厳し過ぎて作業がやりにくくなった。各職場の安全競争で，怪我をしても労災にかけないケースが多くなって困る（点数をあげる為に上部に報告しない）。
10. 私は毎年1人ですので，意見・要望はあまりありません。酒造工で，仕事も楽ですから，村の人が1人でも多く行ってくれたらと思います。
11. 賃金を得る目的は勿論であるけれども，むしろ，それ以上に農家，農村の閉鎖的な社会から離脱した別の環境に身をおくことによって，今までの生活を見直すことのできる，いい機会ではないだろうか。この点においては，地元就職に勝るとも劣

らない有用性がある。

12. 農協十日町，市報等，市内の近況をぜひ知らせて頂きたい。
13. 出稼ぎ先の募集が少ない。
14. 最近の出稼ぎ者は高齢化が進み，会社側では技能を要求してくる事から，就労は難しくなる。今年の冬期出稼ぎはやめたいと思っています。
15. 昔とは違い，途中で帰省できる。道路，交通の便が良くなり，会社が近くなった。現金収入の面でも出稼ぎは必要だと思う。
16. ①１カ月に１回位は帰宅できるような気持ちが経営主にあって欲しい（時々帰宅できるように）。
②出稼ぎ先へ郵送されている新聞（今年より現代農業と地上とのことですが）は，２人以上の会社だけでなく，要望する人がいれば１人でも送って頂きたい。それと毎月の「安塚」や議会報告等も，その都度送って，故郷を思い出せるような手段を講じて欲しい。
③出稼ぎも楽しい勉強と思われるように，楽しい職場であって欲しい。
17. ・労働条件が非常に良くなって来ている。
・若年出稼ぎ者が少なく，酒造工の後継者つくりに困っている。
・人員確保にも困っている。
18. 出稼ぎ者の年齢が年々高齢化して行く。30歳代の出稼ぎ者は殆ど無いと思われる。現在の30歳代は地元に就職する人が殆どであり，今後，出稼ぎ者は漸次減少の傾向である。

＜石川県＞

1. 酒造関係の職場であるが，他産業並に賃金レベルを上げる努力をしなければ雇用が安定しない。
2. 昔の出稼ぎと異なり，安全衛生がやかましいので，高齢の方はついて行けないと思います。種々最新式の規則が沢山ありますので，覚えるのに大変だと思います。時代の差だと思います。
3. 出稼ぎもそろそろやめて，農業に専従したいと思っているが，経営規模を拡大したいと思っても，耕地がなく，専業で出稼ぎ並の収入を上げるのはとても難しい。
4. 老齢の為，出稼ぎをやめたいと思う。
5. 今年から60歳以上の者は使って貰えないので，出稼ぎはやめました。
6. 地元の雇用安定対策の充実。
7. 出稼ぎ者自身の団結強化を図らねばならないと思う。
8. 円高不況で出稼ぎ就職は年々困難になって来ている。安定就労の方途を考えてほしい。
9. 夏は農業に努力していますが，冬期は当分の間，出稼ぎした方が良いと思っている。今年は前年度まで行っていた会社が倒産した為，新しい会社へ就職します。
10. 今年は就労先が決定せず，困った。でも，こんな対策は難しいだろう。
11. 今年は出稼ぎ先が変わって不安でした。毎年就労先については不安でなりません。
12. 出稼ぎも農業も不安である。とにかく一生懸命働く以外に道はないと思っている。
13. 今年は夫と長男と私との３人が出稼ぎします。冬期間の収入は今のところ出稼ぎしかありません。
14. 出稼ぎ以外に冬期間の収入源はありません。
15. 就労先の安定化が望ましいが，高齢化の為，今後の就職は難しいと思う。
16. 高齢なので近くやめたいと思っている。
17. 農業も出稼ぎも不安で困っている。今年は農業に力を入れる為に，出稼ぎ先を県内に変更した。
18. 円高不況によって従来の残業も少なくなり，困っています。
19. 今年はどうにか酒造量が増加したけれども，売れ行きが不振で，私共の出稼ぎにも影響があり，極めて不安である。
20. 地元産業が拡大し，雇用対策がない限り，外貨を得るためには健全な出稼ぎも必要だと思う。
21. 出稼ぎ者も年々高齢化して行きます。出稼ぎなどをしなくても良いような社会環境になるよう祈る。
22. 出稼ぎしなくても農業だけで生活できることを望む。
23. 地元には，安定した工場はありません。多分，これから建たないでしょう。学校を卒業したら，地元で働く所が少ないので，ほとんどの人が出て行き，だんだん人が少なくなります。
24. 酒造界では65歳定年制を引いているが，せめて70歳位まで延長してほしい。
25. 地元の賃金引き上げ。
26. 地元での地場産業を望む。
27. 毎月の村報は必ず送ってほしい。

（受付：1987年８月31日）